

第 593 回琵琶湖海区漁業調整委員会 会議要録

1. 日 時 令和 5 年 2 月 10 日 (金) 14 時 00 分～15 時 20 分
2. 場 所 滋賀県庁本館 4 - A 会議室
3. 出 席 委 員 谷口 孝男 光永 靖 浦谷 一孝
木村 常男 佐野 高典 松井 弥惣治
松岡 正富 横江 久吉
4. 事 務 局 職 員 武田事務局長 三枝主任書記 上垣書記 岡部書記
杉江書記
5. 説 明 員 二宮技監 山田課長 三枝副参事 上垣主幹(兼務)
久米副主幹 杉江技師(兼務) 西森水産試験場長
6. 会議に付した事件 別添のとおり
7. 配布した参考資料 別添のとおり
8. 議事の経過概要 別添のとおり

会 長 谷口 孝男 印

署名委員 松岡 正富 印

署名委員 浦谷 一孝 印

議 事 の 経 過 概 要

開会宣告 14 時 00 分

武田事務局長 　　ただ今から第 593 回琵琶湖海区漁業調整委員会を開催します。
　　本日は、久保委員、小川委員がやむを得ない事情のため欠席されています。従いまして、現時刻御出席の委員は 8 名であり、定員 10 名の過半数の皆様にご出席いただいております。漁業法第 145 条第 1 項の規定により、本委員会は成立していることを御報告いたします
　　それでは、会議の進行につきまして会長よろしくお願ひいたします。

谷口会長 　　それでは、ただ今から第 593 回琵琶湖海区漁業調整委員会の議事に入ります。本日の議事録署名人は、松岡委員、浦谷委員にお願いしたいと思います。
　　それでは諮問事項にはいります。“漁業許可の制限措置および申請期間について”、水産課から説明をお願いします。

(1) 諮問事項

1) 漁業許可の制限措置および申請期間について

水産課説明 杉江技師

谷口会長 　　ありがとうございました。ただ今の説明について、ご意見、ご質問等があれば発言願ひします。

佐野委員 　　4 漁場のうち 2 漁場が継続でやるということですね。
　　2 つは磯田と両浜の組合が止めるということですよ。ね。
　　やめるのは結構だけど後始末ですよ。ね。土嚢や碇が残っていると、他の漁業に対して影響が大きい。今はアユの沖びき網の採捕期間なんです、浅い所を曳網するので土嚢なんかあるとひっかかって網が上がらない。今年、彦根の方で土木が撤去していますよ。ね。県の方で費用をもって土嚢の撤去している。このことは土木サイドの話だと思うが、水産課からもしっかり指導しておく必要があります。

三枝副参事 　　エリを終了した後の撤去をしっかりとということですが、委員の御指摘どおり、土木の方で河川占用許可を出している、土木の指

導が要るのですが、沿岸というのは他の漁業でも使う大事な漁場ですので、まずは、許可を行使している組合にはしっかりと原状復帰するよう水産課からも指導、助言に努めて参りたいと思います。

谷口会長 今のは土木の占用許可の話ですよ。漁業許可の条件としてはないのですか。

三枝副参事 漁業許可の条件には付すことができませんが、許可をするにあたって通知文の中でしっかりと責任をもって原状復帰をするように指導しています。

谷口会長 これは継続の意思があるかどうかは聞き取りをされているのですか。

三枝副参事 はい。

谷口会長 漁業許可は5年ですか。

杉江技師 はい、5年です。

谷口会長 他にご意見、ご質問等はありませんか。

(意見無し)

谷口会長 それでは、知事から諮問のありました“漁業許可の制限措置および申請期間”につきまして、ご異議はありませんか。

(異議なし)

谷口会長 それでは、異議なしとして答申することといたします。なお、答申の文案につきましては、事務局に一任することといたします。

次に協議事項に移ります。“コイヘルペスウイルス病まん延防止のための委員会指示について”、事務局から説明願います。

(2) 協議事項

1) コイヘルペスウイルス病まん延防止のための委員会指示について

事務局説明 三枝主任書記

谷口会長 ありがとうございます。ただ今の説明について、ご意見、ご質問等があれば発言願います。

佐野委員 指示の期間が一年間なんです、病気という性質上、もう少し指示期間を伸ばせないのですか。

三枝主任書記 これまでも毎年指示を出しておりますが、KHV に関して各種研究が少しずつ進んでいる状況を見ながら、やむを得ず指示を更新しております。むこう 10 年間で指示を出した場合、その間に新たな知見が集積されてきた場合に対応しにくいということもありまして、今のところは毎年指示を出していくということにしております。

谷口会長 他にご意見、ご質問等はありませんか。

(意見無し)

谷口会長 それでは、意見もございませんので、ただいま説明のありましたとおり、委員会指示を発出することといたします。委員会指示の文案については、事務局に一任することといたします。

次に報告事項にうつります。“琵琶湖海区漁場計画素案の意見聴取の結果について”、水産課から説明願います。

(3) 報告事項

1) 琵琶湖海区漁場計画素案の意見聴取の結果について

水産課説明 上垣主幹

谷口会長 ありがとうございます。ただ今の説明について、ご意見、ご質問等があれば発言願います。

谷口会長 提出のあった意見に対して、もう既に調整に入っておられるのですか。そのように聞いたのですが。

上垣主幹 まずはこういった意見が寄せられているということ、次期の免許予定者の漁協に伝え、その概要について現在考えている漁場の使い方の中でこの意見に対して配慮できる部分について、今水産課と協議しており、代替の案についてまとめつつあるという状況です。

谷口会長

それ以外にはないですね、報告できることは。

上垣主幹

はい、今後、水産課も中に入りまして、3者での調整を図っていくのですが、まだ開催は出来ていない状況です。

谷口会長

区域でいうと今の特別採捕許可の001号と002号よりも沖に出ていると、こういう案でしたね。今、おっしゃった調整というのは、少し沖から下げようかとか、そういうことを含めて調整しているということですか。

上垣主幹

そのとおりです。

木村委員

今まで2つ特別採捕許可でやられていたのですが、このまま漁業権化しようということですか。

上垣主幹

はい、両漁協でその了解がとれましたら、これを漁場計画の案に反映しまして、免許申請を受け付けることとなりますので、この区域が新たな漁業権の区域になるという考え方です。

谷口会長

調整ですよ。という状況があるということですので、水産課の方で頑張って調整してもらおうと。そうでないと漁場計画は決定できないですよ。

上垣主幹

はい、そういうことになります。

谷口会長

スケジュールは当然厳守するというスタンスですよ。だから、水産課は頑張って調整すると。

山田課長

8月末がリミットですので、しっかりと間に合うようなスケジュールで進めていきたいと思います。

谷口会長

手続は大事ですね。ということで、引き続き調整をお願いします。他にご質問、ご意見ございませんか。

(意見無し)

それでは次の報告事項にうつります。“アユ資源の状況について”、水産試験場から説明願います。

2) アユ資源の状況について
水産試験場説明 西森場長

谷口会長 ありがとうございます。ただ今の説明について、ご意見、ご質問等があれば発言願います。

木村委員 ミジンコの調査は水深ごとにやっているのか、岸からの距離でやっているのか教えてください。

西森水産試験場長 岸、沖、その中間を調査しているのと、水深も表層、10m、20m、底層など色々なところで調査をしております、ここではその平均値を出しています。

佐野委員 確かに体長は、平年値よりは今年は大きかった。こうなってくると体長は42.1mm、平年よりも大きいんだけど、細い、やせてます。
大型のミジンコを食べるということですが、12月までは大型ミジンコは平年よりも多かったのですが、1月になって急に減った。餌が減ったからといって、こんな急激に痩せるものですか。

西森水産試験場長 今まで豊富に餌があって順調に成長していて、大きくなってから餌が無くなって痩せるというのがあります。心配しているのは、今、漁師さんからいただいたホンモロコを調査していますが、ちょっと見た目痩せ気味です。データはこれからきっちり出てくるのですが、ホンモロコもアユも痩せ気味ということになれば、心配だということで、注意深く調査しなければいけないと思っていますところ。

佐野委員 ワカサギにしても、一時大きくなってきたのが、年が明けてから急激に小さくなったと漁業者は言ってます。水温がずっと下がってくると減る傾向にはあるんでしょうが、水温が上がってきたら大型ミジンコが増えてくる可能性が高いという見解でしょうか。

西森水産試験場長 水温の関係では、去年は12月からすごく寒くなって、今年は1月から急激に寒波がきたことを考えると水温に大きく影響されているのかなとは思っております。これから増えてくる時期というこ

とで、去年もかなり心配しておりましたけれども、5月には平均並みになってきました。今年も同じようになってくれることを期待しています。平年並みにならなかつたら大変ですが、今の時点では4月以降ミジンコが増えてこないという情報はありません。

佐野委員

去年は、平均的にアユが小さかったですよね。産卵量が多くて水位が大きく下がってしまって、餌が少なかったんだろうということでしたが、6月時分には大きさが回復してきました。今年も、産卵量は平均よりは少し少なかったということですが、餌の関係なのか最初から大型でした。仮にミジンコ等の餌が試験場の予想どおり水温が上がってきたら、アユの成長は期待できるのですか。

西森水産試験場長

もちろん期待できます。先ほどのトランセクト調査でも申しましたが、琵琶湖の中にはまだ小さなアユが沢山いると思っていますので、それらがどんどん大きくなって、漁獲されるようになってくると期待しています。

木村委員

ミジンコが発生する水温というのはわかるのでしょうか。水温によって、発生するしないなどがあるのでしょうか。

西森水産試験場長

水温ごとのプランクトンの成長速度については論文もされており、水温が上がれば増殖速度が上がるという関係が分かっているので、通常の4月の水温であれば、かなり増殖するものと思います。

木村委員

それが何℃ということは分からないのですね。大体10℃くらいから増えてくるとか。今の琵琶湖の水温が10℃前後ですかね。

西森水産試験場長

今の琵琶湖の水温は、1月の定期観測のデータでは表層では9.5℃、水深10m地点では9.3℃、水深30m地点では9.2℃、水深75m地点では8℃ということで、10℃をちょっと下回るくらいです。これが15℃とかですね、それくらいになってくると増殖してくれると思います。

谷口会長

その他、ありませんか。

予定の議案は終わりましたが、その他、情報提供事項、質問事項がありましたら、ご発言をお願いします。

木村委員 外来の珪藻の件ですが、その件に関して分かることがあれば教えてください。

西森水産試験場長 詳しい資料を持ってきていないのですが、ミズワタクチビルケイソウという外来の珪藻ですが、在来のクチビルケイソウに比べると少し大きい。昨年ですね、福井県立大学の先生が安曇川で調査された時に発見されたということでございます。ごく僅かですが、発見されて論文化されたということです。他県においては、そのミズワタクチビルケイソウが石に付着してアユが食べにくいほどに繁茂してしまうということで、アユの成長に影響を与える事例も報告されております。我々としましては早いうちに駆除したいということで、溪流の釣りが始まる前に河川の漁協に対して、消毒方法を周知しています。胴長とかはいて釣りをされて、また違う川に行かれるとそこでまた増えてしまう、あるいは他県から持ち込んでくる可能性もあるということで、関係する漁協にエタノールを配って、消毒方法を指導しながら何とか拡大を防ぐ、駆除できないかということで対応しています。

谷口会長 評価としてはまだそれほど危機感を持っているわけではないということですか。

西森水産試験場長 危機感を持っていまして、滋賀県内の色んな川に広がってしまうと困ったことになります。2月に博物館の研究員の方がその場所を見に行かれたのですが、肉眼では見えないのですが顕微鏡で見るとやはり少しあるということで、これから増えてくる可能性がある。ただ、水温が高くなると消滅してしまうというような性質を持っているのですが、そういう情報を博物館や大学の先生と共有しながら何とか増えないようにしていきたいと思っています。

谷口会長 肉眼では見えないんですか。

西森水産試験場長 (今の安曇川での状態では) 肉眼では全然見えません。顕微鏡で見ると少し見える感じです。

谷口会長 他になにかございませんか。

横江委員 一つ教えてほしいのですが、今、県内でも花火が上がっています

よね。あれはどこが許可しているのですか。毎週末ボンボンあがっていますが、すごい音で魚が散ってしまうんですよ。どこが管轄しているのか調べてもらえないでしょうか。

山田課長

いますぐどこが担当しているのか答えられないので、確認するようにします。

横江委員

去年ワカサギもホンモロコも最高1キロほど獲れたし、南湖でも少し増えてきたと喜んでいたので、花火がドンドコ上がるものだから、魚がどこに行ったかさっぱり分からない。この間から調査で回っていますが、どこに魚がいるか全然わからなくなってしまった。他に原因は見当たらず、花火のせいではいかと考えています。プリンスホテルか琵琶湖汽船か分かりませんが、これだけ頻繁に上げられると、地響きがしています。コイなどはそんなに散らないが、アユとかホンモロコやワカサギなんか、すぐさまどこかに行ってしまうので、調べて欲しいです。

谷口会長

この調整はなかなか難しいですが、魚の視点、可能な限りで分かることがあればお願いします。場長は何かご存じですか。

西森水産試験場長

琵琶湖ではなく河川ですが、工事などで音がするとアユが違うところに行ってしまうとか、そういう報告はあったように思います。やはり水の中は音が伝わりやすいので、振動もあるでしょうし、影響がないってことはないような気がしています。

横江委員

昔は年1回でしたよね、大きな花火が上がるのは。ここ2、3年コロナが流行ってから予告なしで毎週末のように花火が上がります。

谷口会長

はい、では一回調べておいてください。

他にないようでしたら、以上をもちまして、第593回琵琶湖海区漁業調整委員会を終了いたします。